

## 第1回ワーキングでの主な意見と対応

項目	意見	推進計画への反映	備考
河川 下 水 道 対 策	昔は、川の砂利とか土砂をとって川底を深くしていたように思うのですが、最近はそのようなことは経費がかかるからやらない。土砂をとるより山を削ったほうが安いということで、あまりとらないように思うのですが、如何でしょうか。	参考意見とさせていただきます。	<p>【国回答】 国管理区間においては砂利の採取が行われていましたが、昭和47年をピークに減り始め、昭和60年代からほとんど採取が行われていません。これまでに92万m<sup>3</sup>の砂利が採取されています。 また、砂利採取に関する規制計画において定められた区間で、河川管理上支障となる砂利堆積箇所については、砂利採取を許可しています。</p> <p>【県回答】 砂利の採取については、砂利採取業者の活用が考えられますが、砂利採取で採算をとるためには、骨材として使用可能な砂利について、一定の比重や大きさのものを安定して、大量かつ継続的に供給することが必要であり、このような条件を満たす河川は限られることから、実績はほとんどなく、揖保川では実施していません。</p>
	林田川の下流では、土砂の堆積や立木が生えている状況である。 洪水時には、越流することも考えられるため、現地確認を行い、早く対策をしてほしい。	計画に記載済みです。 【推進計画記載箇所】 4-1.河川の整備及び維持管理 (推進計画本文P39) 「揖保川水系河川整備計画」(国管理区間)に基づき、整備及び維持管理を行います。	<p>【国回答】 平成25年7月に策定された揖保川水系河川整備計画(国管理区間)により、目標流量が流下するのに阻害になる箇所において、河道掘削などの治水事業を実施していきます。また、河道内の土砂堆積が進行することにより、樹林化や河岸の浸食などの影響を受けることがあるため、このような河川管理上支障と判断される土砂堆積については、適切に河道を確保するための維持掘削を、河川環境に配慮しながら行っていきます。 林田川についても、定期的な測量や日常的に実施している河川巡視により適宜河川の状況を把握しており、今年度の11月以降に中井橋～姫新線橋梁の間の土砂堆積・樹林化している箇所について、掘削を実施する予定です。今後も引き続き適切な維持管理に努めていきます。</p> <p>【県管理区間の堆積土砂撤去の考え方】 堆積土砂の撤去につきましては、1級河川のうち、直轄管理以外の大臣指定区間において、河川管理者である県が実施します。 土砂の堆積状況に応じて、個別に調査し、必要に応じて、堆積土砂撤去を実施していきます。 今年度については、千種川(宍粟市千種町黒土地区)で土砂撤去(6000m<sup>3</sup>)などを実施しました。また、馬路川(たつの市揖保川町黍田地区)で堆積土砂620m<sup>3</sup>、中垣内川(たつの市揖西町中垣内)で堆積土砂470m<sup>3</sup>の撤去、栗栖川(たつの市新宮町千本地区)で伐木工事を予定しています。</p>
	河川改修は、下流から実施していくので、上流は置き去りになる傾向がある。上流部でも工事してもらっているが、無堤のところがあるので、県の管理区間のうち、堤防が無い区間について、改修をお願いしたい。	計画に記載済みです。 【推進計画記載箇所】 4-1.河川の整備及び維持管理 (推進計画本文P39) 県管理区間については、河川整備計画の策定後に本計画へ反映します。	県管理区間の整備箇所については、現況流下能力等を確認し、下流の整備状況等を踏まえ、必要に応じて局所的な対応や堆積土砂撤去等、適切に対応していきます。

項目	意見	推進計画への反映	備考
流域対策	水田が宅地化され、雨水が浸透しにくくなっている。	計画に記載済みです。 【推進計画記載箇所】 1-4浸水被害軽減に係る課題 (3)流域対策の課題 (推進計画本文P32) このような課題を踏まえ、河川下水道対策に加え、流域対策を実施し、一時的に貯留浸透させることが重要であると考えている。	—
減災対策	宍粟市曲里地区では国土交通省と共同で自主防災のモデル地区として、防災マップの製作、危険・注意標識の設置、防災マップを使った訓練等を実施しています。 また、自主避難の目安として、河川堤防や橋に、自主避難の目安となる水位の位置に目印をつけています。	計画へ追記します。 【推進計画記載箇所】 6-4.浸水による被害の軽減に関する学習等 (推進計画本文P90)	宍粟市では、自主防災会に対して、防災マップの作成費用の補助を実施しており、今後も継続して実施する。 市内の曲里地区では国土交通省と共同で自主防災のモデル地区として、防災マップの製作、危険・注意標識の設置、防災マップを使った訓練等を実施している。 また、自主避難の目安として、河川堤防や橋に、自主避難の目安となる水位の位置に目印をつけている。
モデル地区	太子町石海地区では、田んぼダムを実施していても、冠水しています。全体的な排水能力の向上を考えてほしい。	備考欄に記載のとおり、下水道の整備には長期間を要するため、流域対策や減災対策も含めたモデル地区として、浸水被害の軽減を図ることを推進計画に記載しております。 【推進計画記載箇所】 8-2モデル地区における対策の推進 (推進計画本文P105)	下水道の整備には、長期間を要することもあり、流域対策や減災対策を含めたモデル地区として、県・町・県民が一体となって、浸水被害を軽減する対策に取り組んでいきたいと考えています。
	モデル地区になった場合、例えば田んぼダムについて地域における進め方はどのようなになるのか。	参考意見とさせていただきます。	モデル地区で効果のある田んぼの位置等を把握した上で、県や市の担当から相談させていただきます。
その他	モデル地区の中で意識向上を図っていくことは良いことである。	参考意見とさせていただきます。	—
	策定された推進計画の周知・普及が大切ですが、どのように進められる予定ですか。	計画へ記載済みです。 【推進計画記載箇所】 7-1モデル地区の選定 (推進計画本文P96) モデル地区において、総合治水により意識向上を図り、計画地域全体へ先導事例や効果等を情報発信することで、取り組みへの理解を深めていく。	—